

03 モデル事業成果報告

今年度取り組んだ3つのモデル事業の成果を以下にまとめます。

じもとクリエイターによる「かわさき農のマナーUP」プロジェクト

1年目
事業

村瀬 成人 氏（ノクチ基地／株式会社 mugroom アートディレクター）

市内農家の課題に、庭先直売所や畑からの野菜の盗難、ごみの不法投棄等があります。これらの問題を「デザイン之力」で解決する試みとして取り組みました。

■ 都市農地へのマナー UP ポスターの制作

ポスターは、鉄道会社などでよく見られる「マナー広告」を参考にキャッチコピーを設定、全体のデザインは、まちを歩いて目に付きやすい色を用いています。また、①まちの畑へ心使いすることがまず大切であることを訴求する「導入編」、②盗難がよくないことをナットクしてもらう「盗難編」、③農業知識も伝えるユーモアを交えた「不法投棄編」の3部作を制作しました。

■ 関連するブックレットや Web サイトの制作

ポスターだけでなく、より多くの地域の人に畑を知ってもらうため、「まちの畑に親しもうブックレット」や、いつでも内容を更新できる Web サイトを作り、多くの人に知ってもらえるようにしていきます。



導入編



盗難編



不法投棄編

遊休農地の活用と障がい者の雇用創出

2年目
事業

村西 明 氏（有限責任事業組合 次世代農業・食品循環研究所 アドバイザースタッフ）

障がい者の仕事として継続できるものとして、清掃作業を応用しながら「畑の手入れの手伝い」ができないかと考えたのが本取り組みのきっかけです。昨年度から2年目の取り組みとなります。

■ 障がい者による農作業の可能性

今回のモデル事業では、支援学校や養護学校の生徒が、農地に出向いて畝作りから植えつけ、収穫などの一連の流れを体験しました。援農ボランティアと連携することで、学校との連携も図れ、円滑な取り組みを実現することができました。

また、農業者の協力の下、知的障害のある人でも作業

ができる仕組みを作り、倉庫作業や屋外除草作業との親和性を確認することができました。

■ 今後の取り組み

今後は、近隣農家での障がい者施設による収穫や販売を広げ、事例の積み上げによる新たな農福連携モデルを構築していきたいと考えています。

H28 年度の成果		H29 年度の成果	
福祉施設の参加のべ人数	55人	福祉施設の参加のべ人数	156人
作業場所	3箇所	作業場所	5箇所
作業内容	3種類	作業内容	7種類

アスパラガスの新たな栽培方法 新規ホーラーを使った「採りつきり栽培」

2年目
事業

元木 悟 氏（明治大学 農学部農学科 専任准教授）

アスパラガスは一般的に栽培が難しいとされていますが、誰もが簡単に付加価値の高い農産物を生産できるシステムとして「採りつきり栽培」を開発しました。

■ 黒川地区での取り組み

黒川地区の17件の農家さんにご協力頂き、試験栽培を実施。今年度は巡回の他、勉強会やアンケート調査の実施、販売戦略の講習、栽培の見本となるようモデル圃場を設置しました。昨年の3月に定植してから、5月に支柱立てやネット張り、その後薬剤散布、11月には茎葉を刈りとりて転流させ3月からは収穫が始まっています。

黒川地区に多い水田転換畑にもモデル圃場を整備し、

他と同様に栽培出来ていることを確認しています。

■ 今後の取り組み

今後、地域特産物としてアスパラガスを広げるため、実験圃場で小学生による収穫体験、アスパラガス栽培に関する農家へのアンケート調査、新鮮なアスパラガスの需要調査等を実施していきます。



太宝早生



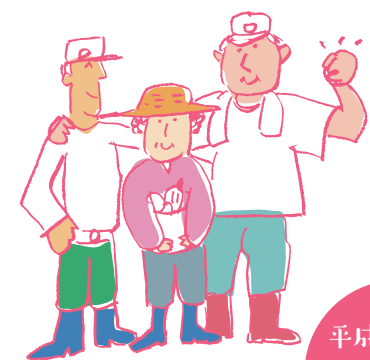
満味紫



アンケート調査

かわさき都市農業活性化 コト・モノ・ヒト News

川崎市農商工等連携推進事業



平成 30 年
3 月号

発行者：川崎市農業振興課

川崎市では、生産者と消費者の距離が近いというメリットを生かした営農や、農地の持つ多面的な機能を生かしたまちづくりが積極的に行われています。一方で、都市化の圧力や相続を契機とした農地の減少、農産物価格の低迷、担い手の減少や高齢化などの農業に関する様々な課題もあります。

これらのメリットや課題を踏まえ、農業者が、商業者、工業者など、多様な主体と連携することによって、都市農業の可能性をさらに広げることを目的に、昨年度から「都市農業活性化連携フォーラム」の開催及び「モデル事業」を実施するとともに、今年度は「都市農業活性化連携部会」を開催するなど、連携の可能性を広げてきました。これらの取り組みを紹介します。



平成 29 年度の主な取り組み

日程	タイトル	主なテーマ
4月	モデル事業採択（新規事業1件、継続事業2件）	
8/22	第1回川崎市都市農業活性化連携部会	農業 × 工業 × 情報
11/27	第4回かわさき都市農業活性化連携フォーラム	農業 × 商業 + α
12月	川崎市農商工等連携推進事業広報紙発行 平成29年12月号	
1/26	第2回川崎市都市農業活性化連携部会	農業 × 商業 + α
2/9	第5回かわさき都市農業活性化連携フォーラム	農業 × 市民 + α
3月	モデル事業成果報告	
川崎市農商工等連携推進事業広報紙発行 平成30年3月号「本誌」		

各ページに
それぞれ開催報告を
まとめています。
ぜひ見てください！

お問合せ

川崎市 経済労働局 都市農業振興センター 農業振興課 農政係

住所：〒213-0015 川崎市高津区梶ヶ谷2-1-7 JAセレサ梶ヶ谷ビル2階

TEL 044-860-2462 FAX 044-860-2464

01 平成 29 年度川崎市都市農業活性化 第2回連携部会を開催！

農業 × 商業 + α

意見交換の様子



発表の様子

平成 30 年 1 月 26 日（金）に、第 2 回連携部会を都市農業振興センターにて開催しました。

農業者 7 名、商業者 7 名、大学・福祉・関連事業者等 11 名、及び事務局、オブザーバーなど、計 32 名が集まりました。農業や福祉農業が抱える課題や今後やってみたいこと、商業者をはじめ、様々な方々のアイデアなど、活発な意見交換を行いました。

これらのアイデアを具体的に検討したい方、このほかにも検討してみたいテーマやアイデアがありましたら、**農業振興課**まで連絡ください！

部会で出た意見やアイデアの一部をご紹介します！

課題 ○手間がかかり、個別に出荷できない。
☆農園に買いに行きたいが、行きにくい。
☆農業者と対話して野菜を購入したい。



飲食店に野菜を使ってもらいたいけど…

アイデア ・農家とレストランが**出会う機会**をつくる！（交流会、農家ツアーなど）
・レストランが農家へ収穫しにいけるよう、**情報発信**する。（SNS や地域新聞など）

課題 ☆中間所得者層（高すぎず安すぎず）をターゲットに、本当の美味しさを伝えたい。
○商品として野菜の発信が出来ないか？
☆買うことを楽しんでもらいたい。



農産物をブランディングしたい！

アイデア ・ブランディングを**地域ぐるみ**で取り組む！
・**ワインに合う**地元野菜（加工品）として売り出してはどうか。

課題 ○ボランティア等に手伝ってもらいたいが、農家は保守的な人が多くて、難しい。
○人手不足だが、相談できるところがない。

人手不足に悩んでいます



アイデア ・クラウドファンディングの活用や、**農業体験サービス**をビジネス化する。
・楽しむだけじゃない、**人材を育てる農業イベント**を行う。
・ボランティア等の仲介を市や JA が担う。

課題 ○商業者がどんな作物を作ってほしいのかわかりたい。
○イベント以外でジャムを売る機会がほしい。
◇セレスモスや市場以外の販路はないか？

販路を拡大したい！



アイデア ・川崎産野菜の**アンテナショップ**をつくる。
・ジャムを農家の庭先直売所で売ってもらう。
・**移動販売車**で売ってみる。

課題 ○規格品でなく、オリジナルのラベルやパッケージがほしい。
○パッケージを工夫することで、今まで売り物にならなかった野菜を売れないか。

パッケージを工夫したい！



アイデア ・**レシピ**も一緒に販売する。
・いろんな野菜をセットにつめて、**まとめ売り**できる**パッケージ**を作る。

課題 ◇地域の人々が地域の農業について知れる機会がほしい。
◇子供たちに農業を伝えたい。

地域の人に農業を知ってもらいたい！



アイデア ・**農家めぐりウォーキング**に参加してもらう。
・川崎産野菜を使っている**レストラン**や**加工品を置いてある店**をもっと知らせる。
・川崎産野菜をどの**スーパー**にも置く。

課題 ○加工品で新たな収入源にしたい。
◇加工業者が見つからない。
☆加工技術は難しい。機材も高い。

川崎産野菜で加工品を作りたい！



アイデア ・誰でも使える**レンタル加工スタジオ**を作る。
・明治大学黒川農場の先生等に加工品技術について**レクチャー**してもらう。

02 第5回かわさき都市農業活性化 連携フォーラムを開催！

農業 × 市民 + α

2/9（金）15：00 より、宮前市民館において、第 5 回かわさき都市農業活性化連携フォーラムを開催しました。出席者は 97 名（農業者 25、工業者 3、商業者 1、その他関係機関 58、市議会 1、行政 9）で、多様な主体の皆さんにご参加いただきました。

今回は、モデル事業や連携部会の報告と、「農業 × 市民（消費者）」をテーマに、現場で活躍しているさまざまなパネラーの取り組みを伺うパネルディスカッションを実施しました。

■ **かわさき都市農業活性化連携フォーラム**とは
本連携フォーラムは、農業をテーマに、多様な主体が会い、交流する場として開催するもので、様々な連携によって、川崎らしい都市農業が生まれ、発展することで、持続可能な都市農業の実現を目標としています。

プログラム

第 1 部：フォーラム 15:00~16:50

■ 農 × α 連携 ……………
モデル事業の実施報告
◇じもとクリエイターによる「かわさき農のマナー UP」プロジェクト
村瀬 成人氏（ノクチ基地／株式会社 mugroom アートディレクター）
◇遊休農地の活用と障がい者の雇用創出
村西 明氏（有限責任事業組合 次世代農業・食品循環研究所 アドバイザースタッフ）
◇アスパラガスの新たな栽培方法
新規ホーラーを使った「採りつき栽培」
元木 悟氏（明治大学 農学部農学科 専任准教授）

■ 農 × 商 連携
第 2 回連携部会の開催報告
松村 一平氏（東京海上日動火災保険(株) 神奈川支店支社長代理）

■ 農 × 市民連携 ……………
パネルディスカッション
コーディネーター
佐々木 順平氏（㈱フードビート 代表取締役）
パネラー
伊藤 昇氏（宮前区農業者）
澁谷 直子氏（高津区農業者・野菜ソムリエ）
清水 まゆみ氏（食農ライター）
山本 美賢氏（一般社団法人カワサキ/サキ理事）
松村 一平氏（東京海上日動火災保険(株)神奈川支店支社長代理）

■ 全体講評
竹本 田持氏（明治大学副学長 農学部教授）

第 2 部：交流会 18:00~19:00

■ 名刺交換会



フォーラムのようす



交流会のようす

モデル事業の実施報告

今年度の 3 つの事業について、それぞれ取り組みの内容や成果を報告していただきました。詳しくは、次ページを参照ください。



村瀬氏



村西氏



元木氏

パネルディスカッション 「市民と生産者がつくる川崎の都市農業」

コーディネーターを東京や地方で食や農に関するプロジェクトに関わる佐々木氏、パネラーを川崎市内で市民と生産者が関わりながら都市農業の活性化に取り組んでいる皆さんを迎え、パネルディスカッションを実施しました。

生産者の視点、生産者を応援する市民の視点、地方と比較した俯瞰の視点など、様々な視点から川崎の都市農業の現状や課題について話し合われました。

最後にパネルディスカッションのまとめとして、「川崎の都市農業は、色々なパーツは揃っているものの、生産者、市民、行政等の間で共通意識が定まっていけないのではないか。そのため、今後は『友生（ゆうき）的な繋がり』を意識していくことが大切。」という視点をいただきました。



パネルディスカッションのようす



佐々木氏



伊藤氏



山本氏



澁谷氏



清水氏



松村氏